

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,065	t-CO ₂
① （温を除く） 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素換 排 算 出 量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		3,065

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	3,065	t-CO ₂	3,546	t-CO ₂	▲ 15.7

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		t-CO ₂		t-CO ₂	

（2）目標設定の考え方

主要生産品は肥料であり、天候変動に左右される部分や、特に近年の原料供給不安から肥料受給バランス(当社生産分)が崩れ、一時的に減産傾向となっていました。基準年に対し総排出量を抑えることを目標に、生産数量が減少している令和6年度の総排出量を基準ではなく、「令和4年度 3,734t」を基準として、その5%の削減で3,546tとしました。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の実践	空調設定温度の見直し。 更新時には高効率のものに取り換える。	
省エネルギー・省資源の実践	未使用箇所、休憩時間等の消灯の徹底。	昼間休息時の自動停止機器の増
自動車等輸送機関に対する対策	エコドライブの推進。	
工場等の稼働における対策	エネルギーロスが少なくなる様な製造工程の見直し。 高効率機器への更新。 省エネ機器の導入。	
省エネルギー・省資源の実践	工場屋根の遮熱シート導入による温度上昇抑制 → 冷房機器の使用減	
工場等の稼働における対策	乾燥工程で使用する燃料を 重油→LNG への移行を計画	段階的に移行を実施

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	30 %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--